

Q: BWV72-1の詳細な楽曲分析をして下さい。

A: ChatGPT:

以下は、J.S.バッハ《カンタータ BWV 72「Alles nur nach Gottes Willen」第1曲(合唱)》の詳細な楽曲分析です。
演奏・指揮・合唱練習に直結する視点を重視して整理します。

BWV 72-1

Alles nur nach Gottes Willen
(合唱・1726年／三位一体節後第3日曜日)

1. 作品全体の位置づけ

- 成立年: 1726年
- テキスト: ピカンダー (Picander)
- 性格: 教義的・観念的、感情を誇張しない
- カンターハルム全体:
 - 神の意志に完全に委ねる「静かな信仰告白」
 - 苦難・嵐を感情的に嘆かない姿勢

👉 第1曲は、感情導入ではなく「信仰の原理提示」。

2. 編成と音響的性格

編成

- 合唱 (SATB)

- オーボエ2
- 弦楽(Vn I/II, Va)
- 通奏低音

特徴

- トランペット等の祝祭的楽器なし
- 音色は暗すぎず、明るすぎず
- 全体に「硬質・均質・節度」

👉 感情の爆発を避けた編成。

3. 調性・拍子・テンポ[◦]

- 調性:二短調(d moll)
- 拍子:4/4
- テンポ感:中庸～やや重め

調性の意味

- 二短調=
 - 苦難・嵐を示唆
 - しかし絶望ではない

👉 神の意志に従う「現実直視の信仰」。

4. 冒頭主題(最重要)

特徴

- 不協和を含む和声から開始
- 属音・導音の扱いが不安定
- すぐに安定しない

意味

- 「Alles nur nach Gottes Willen(すべては神の御心のまま)」
が 安定した幸福宣言ではないことを示す。



信仰=安心ではない

信仰=状況を選ばない受容

5. テキスト構造と音楽対応

テキスト

Alles nur nach Gottes Willen,
so bei Gleißern,
so bei Stürmen,
so bei Winden,
so bei Wetter.

①「Alles nur nach Gottes Willen」

- 同音反復+重心の低い旋律
- 和声は完全終止を回避
- 合唱は宣言というより定式



感情を込めすぎると音楽と矛盾する。

②「so bei Gleissen」

- 音型がやや上向き
- 音のきらめきを示唆
- しかし装飾的にならない



光=祝福とは断定しない書法。

③「so bei Stürmen」

- リズムが硬化
- 和声の緊張が増す
- 強拍に不協和が来やすい



嵐を「嘆かない」が「美化もしない」。

④「so bei Winden」

- 音型が流動的
- 弦が風の動きを暗示
- 合唱は短い音価中心



人間の意志が左右される状況。

⑤「so bei Wetter」

- 総括的
- 音楽的变化は控えめ
- 全現象を一列に並べる



善悪・快不快の区別を消す。

6. 合唱書法の特徴

声部関係

- 厳密なフーガではない
- 模倣はあるが短い
- 縦の和声感覚が最優先

歌い方の指針

- ロマン的レガート X
- 説教的アクサン X
- 淡々とした強度 O
- 子音を揃え、母音は短く



「感情を込めない集中」が理想。

7. 構造的特徴

- 明確なA-B-Aではない

- 列挙型構造(enumeratio)
- 終止感を抑制



「完結」より「持続する姿勢」。

8. BWV 102-1との比較(要点)

項目	BWV 72-1	BWV 102-1
テーマ	受容	警告
不協和	静的	攻撃的
感情	抑制	緊張
合唱	定式的	劇的

👉 BWV72は内省、BWV102は断罪。

9. 指揮・練習上の核心ポイント

指揮者として

- テンポを煽らない
- 表情付けを最小限に
- 和声の変化を主役に

合唱団へ伝える言葉(例)

「喜びも嵐も、同じ距離で見ています」
「感情を出さない勇気を持ちましょう」

10. 総括(音楽思想)

BWV 72-1 は、

- 苦難を肯定しない
- 祝福を誇張しない
- ただ「人の判断を差し出す」

という、

極めて厳格で成熟した信仰音楽です。

あなたの団が掲げている

「演奏第一主義ではなく、共に理解する」
という姿勢と、非常に深く共鳴する作品です。

ご希望があれば次に：

- 小節番号付き和声進行分析
- 合唱練習用の“言葉→音楽”対応表
- **BWV72全曲の思想構造マップ**
- 日本のアマチュア団向けテンポ設計

まで踏み込めます。